

久喜の自然を愛する会

会報 第36号 2022年12月

会のモットー

- 1 足元から自然を学ぼう
- 2 現在ある自然を次の世代に残そう

巻頭言

NPO 法人久喜の自然を愛する会 代表理事 藤浪康義

人生初めての同定体験

今年、私は人生初の同定を体験した。これまでは未知の野草は自分で調べるか、前会長の長須先生にお願いして名前を確定していた。前者は非常に非効率で確定するまでに何年もかかることも有った。長須先生も体調を崩されてお願いできない。今では、スマホで手取り早く調べる方法もあるようだが私はその方面にはトンと暗い。

今年の5月、宮代のネギ畑にきれいな花をつけた見知らぬ野草があるのに気が付いた。ネギの休閒部分の畑に何万本もの同じ野草が生えていた。

一見して外来種と思われた。

私が会員になっている「日本帰化植物友の会」に連絡して、その野草の標本を作って送った。

その結果「アンジェリカ」というブラジルの野草であることが判明した。

その畑の持ち主である K さん（知人）に聞くと畑の連作障害をなくす為に作付けしたものだという。K さんは若いころ、ブラ



ジルに移住した体験があり、その時知ったものだという。

(同定＝野草等の種(名前)を確定すること)
(花)

アンジェリカ

令和4年度の主な行事予定と実施状況

1月7日(金) 七草がゆを食べる会 太田集会所 実施

3月1日(火)～6日(日) 野草写真展 コロナ蔓延により中止

4月3日(日) 野草のてんぷらを食べる会 コロナ蔓延により中止

4月9日(土) 第18回総会 実施

4月24日(日) 本年度第1回ふれあいウォーク「新しい村」 実施

5月18日(水) デンジソウ保護活動 実施

7月3日(日) 中土手野草保護活動と観察会(年度途中で企画) 実施

7月20日(水) デンジソウ保護活動 実施

7月25日(月)～30(土) 野草写真展 コロナ蔓延により中止

9月28日(水) 自然観察バス旅行 実施

10月26日(水) 本年度第2回ふれあいウォーク「吉羽天神」 実施

12月18日(日) キクイモ掘り 実施予定

注1、野草保護活動は4月～10月の毎月1回東西保護区で予定通り実施

注2、デンジソウ保護活動は、これまでの保護地が宅地化されるため7月20日で現在地での活動は終了し、新しい場所に移植しての保護活動を模索している。

七草がゆを食べる会

令和4年1月7日

当日は晴れてよい日でした。前日の大雪の影響か申し込み者は23名でしたが、当日の参加者は18名でした。

午前9時30分から開催されました。

初めに藤浪会長のあいさつがあり、講師の清野先生から七草がゆの作り方の説明を受けました。

全体を3つの班に分けて作業が開始されました。

1班担当 清野先生（全体も兼務）、2班担当 岩崎さん、3班担当 津田さんです。

採取してきた七草の下ごしらえは、小さな野草なので大変でした。

なれない作業でしたが、レシピに従って「令和4年の七草がゆ」が出来上がりました。

10時半より七草がゆを食べる会

テーブルに配膳された席に18名がそろい、藤浪会長の挨拶、斎藤理事のお茶による乾杯の音頭で始まりました。

梅田市長、井上市議もお見えになりご挨拶をいただきました。その後会員より市政の要望や質問ができましたが、他の団体ではできないことだと思います。

質問・要望

- ① 東地区野草保護地を開発から守りたい。吉羽田んぼを公園地区、宅地地区、商業地区に3分割した町作りを進めてほしい。東地区の野草保護地は公園地区に入れればよい。
- ② コロナ感染症ワクチン接種会場を考えてほしい。
- ③ 地域によっては児童館や公園がないため、子供たちの「学ぶところ、遊べる場所」が無い。
- ④ 圏央道の久喜・宮代インター（仮称）沿いの土地はどのように利用されるのか。
- ⑤ 圏央道の久喜インター付近の事故や渋滞が多いのはどうしてか。

⑥ スーパーが私有地に有り、地主から立ち退きを要求されている。無くなってしまうと、身体の不自由な人などは買い物に行くのが困る。

梅田市長と井上市議会議員のお答えは省略します。

以上のように会員と梅田市長、井上市議との交流ができたことに大変光栄に感じました。

会員からは余興も飛び出しました。

① 玉すだれの舞、口上（こうじょう）が披露された。

② 俳句も披露された。

○ 七草を たたいて青き 希望かな（宮城 眞）

○ 無病息災信じ 七草を食む

尽日や 卓に仲間と食事会

食べ過ぎて わが身を叱る七草粥（紫苑・清野芳子4）

コロナ感染症の中なので、余興は自粛の方向で進行しようと考えておりましたが会員の熱い熱意に大変盛り上がり、盛會に終ることができました。（柏木）

七草がゆを食べる会



全員そろって



みんなで調理



日当たりのよい和室で

NPO 法人久喜の自然を愛する会 第18回総会

令和4年4月9日 久喜中央公民館

第18回総会は久喜中央公民館で開かれました。

宮川副代表による開会の言葉の後、同氏の司会で進められました。

藤浪代表理事の挨拶は、本会が18年目を迎えたこと、18年たつと向こうから入会を希望する人も出てきた等の内容でした。

この後梅田、井上両来賓のあいさつが有り、石川県議からは祝電が寄せられました。
続いて会田理事と笹岡理事が議事録署名人に選ばれました。

慣例により、藤浪代表理事が議長に選任され、議事が始まりました。

令和3年度事業報告が斎藤理事から、会計報告を平尾理事、監査報告を山谷監査から提案され原案通り可決されました。

続いて新役員が藤浪代表理事から提案され、原案通り可決されました。

活動報告（斎藤理事）、活動予算（平尾理事）が提案され可決されました。その他、会の活動を支える諸提案も意義なく可決されました。



参加者全員で



代表理事挨拶、左は梅田市長

山谷氏の監査報告、右は平尾理事、左は井上市議

新役員	代表理事	藤浪 康義	名誉会員	梅田修一
	副代表理事	宮川 俊治	名誉会員	井上忠明
	理事	斎藤 伸之		
	理事	平尾 節子		
	理事	会田 克之		
	理事	松本 春勇		
	理事	嶋田 実		
	理事	柏木 三郎		
	理事	笹岡 久子		
	理事	宮城 眞		
	監事	山谷 信義	監事(内規)	清野芳子
	顧問	長須房次郎		

本年度第1回 野草観察ふれあいウォーク新しい村

令和4年4

月24日

「新しい村」は宮代町が山崎山と言われた里山の景観を残し開設した農業体験と農産物販売施設がある農業公園です。山崎山の雑木林は県緑のトラスト5号保全地に指定され、隣接する水田は、「ほっつけ」(堀上田)とよばれ江戸時代の開墾当時の様子を残しています。

市場結の前にある広場には集合時間9時半までに一般参加者6名、会員参加者18名の合計24名が集合、初めに藤浪代表の挨拶及び説明がありふれあいウォークがスタートしました。

コースは新しい村広場より親水池をまわり、川沿いをほっつけ田に沿って歩き、野草保全地各所及び県5号トラスト保全地山崎山の雑木林を観察し元の広場に戻ります。

まず、広場では紅紫色の花が見事なムラサキサギゴケやサギゴケの群落をノミノフスマ、セイヨウタンポポ、オオイヌノフグリ、ハルジオン、ウシハコベ等の観察説明を受けました。今回のふれあいウオークでは初めから一般参加者と会員との交流も見られ和気あいあいとした雰囲気を感じられました。親水池では畔にケキツネノボタン、ウワミズザクラ、川沿いに入って歴史ある笠原小学校背景に絶滅危惧種のコウホネを観察、田と接する場所ではナガバギシギシ、スズメノカタビラ、ヒメオドリコソウ、オオバコ、ツボミオオバコ、ヘラオオバコが見られ、更にその先には田んぼの春の到来を告げるタガラシ、小さな白い花を咲かせた可憐なツボスミレがあり、分かりやすい説明に熱心に観察の様子でした。

野草保全7号地ではここで帰る人があり全員の記念撮影、ノカンゾウ、ナガボノシロワレモコウ、フジバカマ、コオニユリ、アマドコロ等の保護植物又保全8号地ではヌマトラノオーを観察又樹木のウバメガシ、ニワトコの説明を聞きました。更に進んで保全5号地ではミゾ沿いのチョウジソウのブルーの花の開花を期待したのですが残念ながら時期的に早く一部に留まりました。田が終わる保全3号地の湿地ではワタラセツリフネソウ、ハンゲショウ、チョウジソウがありハンゲショウの白い装いはまだでした。

この後、道路を渡りトラスト保全5号地山崎山の雑木林に入り、その落葉樹のやわらかい日差しと落ち葉の土地にシュンランが見事に咲き誇りアカシデ他樹木の説明を受けました。

集合場所に戻り、本日の野草観察会の感想など広報で参加した人を中心に話が進みました。意義深い観察会でした。

市場結で販売した弁当を10数名が昼食、そこでも一般参加者3名を含んで話が弾んでいました。

(会田記)



新しい村にて全員で

当日の主な野草



ムラサキサギゴケ



ツボスミレ



ノミノフスマ



ワレモコウ (花のつく前)



チョウジソウ



サワフタギ (木)

自然観察バス旅行「日光植物園」

令和4年9月28日

今年は3年ぶりにバス旅行が復活した。コロナ禍では人が集まる何かをやることはずつとできなかった。感染者数相変わらず多い状況であったが、経済優先・旅行の支援など状況が変わりバス旅行が実施された。しかし、行くまではいろいろと問題が発生し、担当の山谷さんの奮闘で何とかなりました。感謝しております。参加者20名。予想では曇りでしたが、快晴の天気になり、初めてすっきりした気分になりました。

日光植物園は3回目の訪問ということであったが、大半の会員は初めてであった。日光植物園職員の田中さんの案内で1時間ほど園内を歩いた。ノハラアザミとナンブアザミの違い、シロヨメナ、ノコンギク、ユウガギクの違いなど分かりやすい説明で学習した気になった。

園内には思ったよりも花が咲いていた。ダイモンジソウ・アキノキリンソウ・シラネセンキュウ・アズマレイジンソウ・ミゾソバ・ウナギツカミ・ヤマトリカブト・セキヤノアキチョウジ・サラシナショウマ・テンニンソウ・シンワスレナグサなど見る事ができた。案内が終わるとお昼の時間で、おしゃべりしながら弁当を食べた。その後は、グループに分かれて、最奥の田母沢邸との境まで行ったグループ、行きと違う道をのんびりと歩くグループなどである。園内に人影はなく、静かで気持ちよい時を過ごせた。

渡邊佐平商店は今市にある造り酒屋である。飲酒も適量なら問題ないという話を聞いて、安心して飲むことができる。道の駅日光で最後の買い物をして栃木へのバス旅行は無事終わった。

補助金申請の関係で、みなさんにいろいろご協力いただき、ありがとうございました。

(平 尾)



日光植物園正門にて



最初に説明を聞く



モミジガサ

ナンブアザミ



サラシナショウマ



ヤマトリカブト



清流をバックに



アキノウナギツカミ



園内の案内板

野草観察ふれあいうオーク吉羽天神

2022年10月26日(

この日は好天に恵まれ、参加者16名（男性9名、女性7名）の方々が、毎年のふれあいうオーク同様に各地より参加頂きました。集合は吉羽天満宮の神社前広場で、車や自転車利用の他、歩いて久喜駅東口より来られた方もおられました。

スタート前に先ず講師役として、野草研究家の藤浪会長より今回の趣旨とコースについて

挨拶方説明後出発しました。

先ず、天満宮に向かって左側道沿い行くと、小さな森の端には保護地にもあるキンポウゲ

科のセンニンソウが見事に白い花を咲かせており、他キク科のコセンダングサが見られました

た。この後、天満宮前の通りを進み右折して田畑に沿った側道を高速車道に向ってのコース

では、アゼガヤツリ、エノキグサ、タカサブロウ、アサザ、イネ科のオヒシバやヌカキビヤ

つる性のイシミカワ等が見られ、更に進むとエノコログサ、アキノノゲシ、トゲの多いカナ

ムグラ、戦後目立ってきたというハキダメギク、イノコズチ、ヘクソカズラや花に引かれた

カントウヨメナ等が観察出来ました。

次に保護地では、フジバカマやワレモコウ、オグルマの花や赤い実のつるウメモドキまた白い実のあるヒヨドリジョウゴその他ツボスミレ、オカトラノオ、クマツヅラ等花の時期のずれていたものもありましたが、保護地の状況を再確認できました。尚、保護地の隣地で育ててきているキクイモは元気一杯であり、12月の収穫が楽しみです。

この後、保護地の反対側を川沿いに進んだ観察では、アカマンマと呼ばれ親しまれてイヌ

タデやアレチウリ、そして最後にノブドウの木に触れた後、皆元気に出発地の天満宮前に戻

り感想を述べて頂きました。今回好天下、保護地を含め田畑の側道沿いにて約40種の野草の説明方観察が得られ、ふれあいある有意義なウォークでした。

(斎藤)



全員そろって？（野草保護地で）



センニンソウ



ガマ



イシミカワ

コシロノセンダングサ

東側野草保護地に咲いていた野草の花



デンジソウ自生地保護活動

絶滅が懸念される野草のデンジソウは、埼玉県希少野生植物に指定され久喜市鷲宮の宝泉寺池一帯が県内唯一の自生地になります。

デンジソウ自生地を保護するための萱等の雑草刈り活動は、本会の年間活動計画として、2018年から年3回実施して来て今年で5年目を迎えました。

年々自生地面積が減少していたデンジソウは、埼玉県、久喜市と共に精力的に保護活動を行って来たことにより現在回復傾向にあります。

ところが、土地の所有者が宅地として売却されたことに伴い、今後デンジソウ保護活動を行うことが出来なくなりました。

このため、埼玉県、久喜市及び本会で急遽デンジソウ保護対策会議を設置し協議した結果、自生地のデンジソウを移植し保護することとなりました。

移植する場所は、青葉小学校、埼玉県環境科学国際センター及び成立学園の3カ所に決定されました。

埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例に基づき平成12年12月1日に指定された宝泉寺池一帯に自生するデンジソウは、残念ですが自生地が住宅地として開発されることになり消滅します。

来年からは、本会とみどりの会との協同で、青葉小学校のビオトープ内に設置した人工池に移植したデンジソウの保護活動を行うこととなります。

また、環境科学国際センタービオトープ内に仮移設した成立学園に移植予定株についても、年内に移植後、本会会員が保護活動を行います。

以下はデンジソウ保護活動とデンジソウ移植作業の状況です。

1. デンジソウ保護活動

- ・ 3月25日（金） デンジソウ自生地の萱等の雑草刈り
本会員2名
- ・ 5月 3日（火） デンジソウ自生地の進入道路の整備、階段作り
本会員2名
- ・ 5月17日（火） デンジソウ自生地の萱等の雑草刈り
本会員2名
- ・ 5月18日（水） 第1回デンジソウ自生地保護活動 9時～10時30分
参加者14名（埼玉県1名、久喜市2名、一般参加1名、本会員10名）
ケーブルテレビ久喜の平野記者の取材あり
- ・ 7月20日（水） 第2回デンジソウ自生地保護活動 9時～10時30分
参加者16名（埼玉県2名、久喜市2名、一般参加2名、本会員10名）
- ・ 11月16日（水） 第3回デンジソウ自生地保護活動 中止

2. デンジソウ移植作業

- ・ 1月26日(水) 埼玉県による現地視察 於：デンジソウ自生地
埼玉県2名、本会員3名
- ・ 9月7日(水) デンジソウ保護対策会議 於：鷲宮総合支所
埼玉県2名、久喜市2名、本会員3名
- ・ 9月12日(月) 成立学園の移植候補地視察
埼玉県3名、成立学園1名、本会員1名
- ・ 9月14日(水) 青葉小学校ビオトープへの移植について打ち合わせ
みどりの会1名、本会員2名
- ・ 10月6日(木) デンジソウ保護対策会議 於：東公民館
久喜市3名、みどりの会3名、本会員4名
- ・ 10月15日(土) 青葉小学校ビオトープ内に人工池の設置工事
みどりの会3名、本会員1名
- ・ 10月19日(水) デンジソウ自生地の進入道路の整備
本会員2名
- ・ 10月21日(金) 現地でデンジソウ3カ所分を掘り上げ後青葉小学校へ移送
青葉小学校校長立会のもとビオトープ内人工池に2株分移植
埼玉県3名、久喜市3名、みどりの会2名、本会員4名
残りの株は環境科学国際センター及び成立学園分は環境科学国際センターに移送

(嶋田)



県みどり自然課の視察(2022・1・26)



青葉小へのデンジソウ移植（2022・10・21）



自生地最後のデンジソウ

（7月20日）

デンジソウ保護活動後に現地で（7月20日）

野草保護活動

本会っでは野草保護活動を2か所で行っています。

東側は青毛堀と葛西用水の合流点右岸（ここから古利根川）に在り、吉羽田んぼに在ったオグルマやノジトラノオといった絶滅危惧種を中心に集めて合計20種近くの野草を保護しています。

西側は久喜菖蒲工業団地の裏手の備前堀と備前前堀の間にある中土手で、ここに自生しているヤブカンゾウやオニユリなどを保護しています。毎年7月初めにヤブカンゾウの群落が見事な花を咲かせます。

4～10月、毎月1回第4日曜日午前10時～12時に保護活動を行っています。会員の皆様の参加をお待ちしています。

東側の記録



5月5名



6月6名

西側の記録



5月5名



6月5名



7月6名

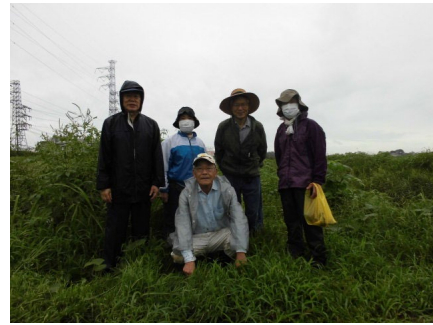


7月4名



8月6名

8月5



名



9月3名



9月5名



10月7名

10月5名

(4月の写真は無し)

中土手保護観察会

2022年7月3日

全会員対象の中土手保護観察会は参加者13名で行いました。最初に平尾さんから猛暑の中なので熱中症を避けるために観察を中心に行う旨の説明がありました。大がかりな除草道具を持参した人はがっかりした様でした。

藤浪代表が体調不良で参加できなかったので、会田さんと平尾さんの説明により観察会は行われた。

お目当てのヤブカンゾウは開花状態は見ごろでしたが、例年に比べると花がきれいではなかった。今年の梅雨は6月27日と早くに明け、雨が少なかった為でしょうか。

- ・ 他の植物としては、ウマノスズクサ、オニユリ、アキカラマツ、ワレモコウが見られました。
- ・ 楽しみにしていたヌマトラノオは除草剤の為か、見る事ができません。
- ・ 野草観察を行った後に、山谷さんからの提案で、保護活動としてヤブカンゾウの間にはびこっているチガヤを抜いた。20分程度、全員で気合を入れて行ったので、思ったより多くのチガヤが抜けました。
- ・ 最後に記念撮影を行い、10時少し過ぎに解散しました。
- ・ 暑いところお疲れさまでした。

(松本)



全員そろって（中土手保護地）



ヤブカンゾウを前に



開花直前のオニユリ

ゆうゆうプラザ「自然観察」実施状況

(宮

川)

令和4年度

NO	実施日	学校名	参加生徒	会の参加者	講座名	活動内容
----	-----	-----	------	-------	-----	------

1 7. 1 東鷲小 9 2 ザリガニ釣り 一人当たり6
匹も

成果有り多い

に楽しんだ

2 7, 16 本町小 13 6 校庭の野草 身近な校庭に多
種の野草

子供と保護者に

関心を高

めた。

3 9. 5 東鷲小 9 3 植物観察 ヘラオオバコや
カヤツリグ

サで草相撲と蚊

帳作り

4 10. 10 太田小 コロナ状況悪化で中止

5 10. 24 東鷲小 9 2 ドングリ遊び クヌギ、ムクロ
ジ等で独楽

作り等

6	1 1. 7	太田小	3	1	ドングリ遊び	同上
7	1 1. 2 1	東鷲小	9	2	植物観察	種の不思議
8	1, 1 6	太田小			七草粥	予定
9	1. 2 3	東鷲小			七草粥	予定

太田っ子ビオトープ

今年1月まで太田小のビオトープにはプールの手洗い蛇口から水を引いていました。

ところが寒波が厳しく、2月には蛇口が凍って破裂してしまいました。これによって池に水が確保できなくなりました。プールから直に水の確保を試みましたが、上手くいきません。それ以降ビオトープ管理を休止しています。

これから来春に向けて電源、水の確保をはかり再生を進めてゆきます。

太田小ビオトープでは、次にあげる野草が確認されました。

- ① イヌタデ ② ヨウシュヤマゴボウ ③ ムラサキシキブ ④ オオアレチノギク

⑤ アオスゲ ⑥ ミコシガヤ ⑦ ゴウソ ⑧ チカラシバ ⑨ ガマ ⑩

ヤブマメ

⑪ ツルマメ ⑫ カニクサ ⑬ オオオナモミ ⑭ メナモミ ⑮ オオハ

ンゴンソウ

⑯ アメリカセンダングサ ⑰ ワレモコウ ⑱ ヘラオモダカ ⑲ スイレ

ン

⑳ ウリカワ ㉑ ヤブマオ ㉒ ノジトラノオ ㉓ ヌマトラノオ ㉔ オ

グルマ

㉕ センニンソウ ㉖ コニシキソウ ㉗ ハンゲショウ ㉘ ニガナ ㉙

ヤブソテツ

㉚ ベニシダ ㉛ フタリシズカ ㉜ イカリソウ ㉝ ショウジョウバカマ

㉞ チゴユリ ㉟ アジサイ ㊱ ウマノスズクサ

ビオトープ内には、多くの樹木があり野生生物の住める小さな森になっています。

(柏木)

新入会員情報

今年の新入会員は、次の2名です。

清水公代さん 090-6517-7720

田中ます子さん 090-2458-2345

よろしくお願ひします。

編集後記

- 今号は、臨時に藤浪が編集しました。
- 久しぶりに編集をやったので、間違い等多いかと思います。
- 10月から始めた編集ですが、もう年の瀬をむかえました。
- 今年は新型コロナウイルスのひき続きの蔓延に加えて、ロシアのウクライ

ナへの軍事

侵攻が有り多事多難な一年でした。

- 本会の活動も様子を見ながらの一年でした
- それでは皆さんよいお年をお迎えください。

NPO 法人久喜の自然を愛する会会報36号

2022年12月発行

発行 特定非営利活動法人久喜の自然を愛する会

発行人 藤浪康義

編集人 藤浪康義